

第 3 次小田原市環境基本計画（令和 4 年 7 月策定）

令和 7 年度（令和 6 年度実績） 年次報告書（案）

令和 7 年（2025 年） ● 月作成

□ 取組の柱に関する令和 6 年度実績（進捗評価）

①組織体制（様式 1-1）

1	庁内連携による環境基本計画の推進	1
---	------------------	-------	---

②取組の柱（様式 1-2）

1-1	環境資源の魅力発信	2
1-2	先導的事業の推進	3
2-1	環境学習・環境活動の推進	5
3-1	地球温暖化対策の推進	7
3-2	エネルギーの地域自給の推進	9
4-1	ごみの減量化・資源化の推進	11
4-2	ごみの適正処理	13
5-1	生態系の維持保全	14
5-2	森里川海の保全・活用（森）	15
5-2	森里川海の保全・活用（里）	16
5-2	森里川海の保全・活用（川）	17
5-2	森里川海の保全・活用（海）	18
6-1	快適な街の維持保全	19
6-2	美化の推進と衛生環境の保持	20
6-3	公害対策	21

③各事業に関する報道（様式 1-3）	22
--------------------	-------	----

④その他（様式 1-4）

1	SDGs の推進	23
2	職員への意識啓発	24

□ 環境審議会における意見（様式 3）	25
---------------------	-------	----

□ 参考資料 1 成果指標（様式 2-1）	26
-----------------------	-------	----

□ 参考資料 事務事業評価一覧

第 2 回環境審議会以降に追加

はじめに

第3次小田原市環境基本計画は、小田原市美しく住み良い環境づくり基本条例第2条に定められた環境政策の理念の実現に向け、同条例第7条に基づき令和4年7月に策定したものです。

この年次報告書は、計画の着実な推進を図るため、毎年取組の進行管理・評価を行うことを目的として作成するものであり、小田原市環境審議会へ報告し意見を踏まえ翌年度以降の取組に反映します。

また、計画に定めた成果指標の達成状況等については、3年に1度の中間年度と、計画期間の最終年度に評価を行い、計画の見直しを行います。

進行管理・評価方法

第3次小田原市環境基本計画の進行管理・評価は、『第3次小田原市環境基本計画の進行管理・評価実施要領』に基づいて実施します。

計画で定めた12の取組の柱について毎年度評価を行う「進捗評価」と、望ましい環境像を実現するために定めた6つの施策について3年に1度指標の達成状況等の評価を行う「中間評価」との2通りの手法により実施します。

令和7年度年次報告書につきましては、「進捗評価」を実施しています。

（中間評価は、令和6年度に実施しました。）

○ 進捗評価 ＜毎年度実施＞ …進捗評価シート(様式1-1～4)

12の取組の柱ごとの進捗状況(アウトプット)の作成

第3次小田原市環境基本計画に定めた事項に基づき、「①組織体制」(様式1-1)、「②取組の柱」(様式1-2)、「③各事業に関する報道」(様式1-3)、「④その他」(様式1-4)の令和6年度の実績による評価を実施しています。

○ 環境審議会における意見(様式3)

進捗評価及び中間評価に対し環境審議会からいただいたご意見です。これを踏まえ、翌年度以降の取組への反映、また計画の見直しに反映していきます。

○ 参考資料 …成果指標(様式2-1)

望ましい環境像を実現するために定めた6つの施策ごとの、成果指標の令和6年度達成状況です。

○ 参考資料 …事務事業評価一覧

進捗評価シートの見方

(補足)

(例)

施策2 多様な主体の育成・活躍の推進		評価対象年度	令和6年度(2024年度)						
2-1 環境学習・環境活動の推進									
市民の環境意識の向上を目指した環境学習などの取組をさまざまな機会を捉えて推進するとともに、小田原の豊かな自然環境の魅力を広く伝え、森里川海を守り育てていくための体制づくりを進めます。									
詳細指標									
環境学習実施件数(件)									
基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値			進捗割合				
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)					
8件	20件	12件	23件	20件	100%				
主な取組 ○重点的 な取組	○市民による環境学習 ・活動推進 ・環境団体等への活動支援 ・情報提供や共有 ・森林環境教育・木育								
定性的・ 定量的 評価	・『夏休み子ども環境教室』、『おだわらグリーンマルシェ×環境フェス@HaRuNe小田原』を開催した。 ・担い手育成を目的とした「おだわら市民学校」専門課程と連携し、おだわら環境志民ネットワーク会員が講師を務め、新たな担い手の確保につなげた。 ・イベント運営にあたっては、市内外での環境活動を推進している団体・個人を中心に講師を依頼、また県施設との連携も図った。 ・わたしの木づかい事業において、市内小学校児童を対象に座学、間伐体験、地域産木材を使った箸づくりまでの森林整備から木材利用の流れを体験することによって、「人々の暮らしに役立つ森林の働き」、「森林の手入れの必要性」、「木を使うことの意義」等、森林・木材に関する理解を深めた。 ・広報紙「広報おだわら」において、脱炭素施策について、特集記事を掲載し、周知を図った。 ・森のおくりもの事業において、誕生祝品として新生児に地域産木材で制作した玩具を贈呈し、感性豊かな乳幼児期から木に親しむ環境を醸成した。 ※詳細指標 夏休み子ども環境教室(14回)、おだわらグリーンマルシェ×環境フェス@HaRuNe小田原(ワークショップ6件)の合計講座数 参考:「おだわらグリーンマルシェ」								
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針							
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない									
状況を示す写真や資料等									
①詳細指標 取組の柱ごとに設定した詳細指標、実績値及び進捗割合(0~100%)を示しています。 進捗割合:基準値から目標値に対する、令和5年度実績値の割合 ※詳細指標が累計の場合は、累計数で算出 【 進捗割合の計算式 】 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> (i)目標値が基準値よりも増または減の場合 「(実績値-基準値) / (目標値-基準値)」 ※目標値を超える場合...100% 基準値を下回る場合... 0% </div> <div style="width: 45%;"> (ii)目標値が基準値維持の場合 「実績値が基準値を超えて入れば100%」 実績値が基準値を満たない場合は 「実績値 / 目標値」 </div> </div>									
②定性的・定量的評価 評価対象年度に実施した事業の定性的・定量的評価の内容を記載しています。									
③進捗状況 取組の柱について、詳細指標(進捗割合含む)及び定性的・定量的評価から、計画どおりに進捗しているかないかを総合的に判断しています。									

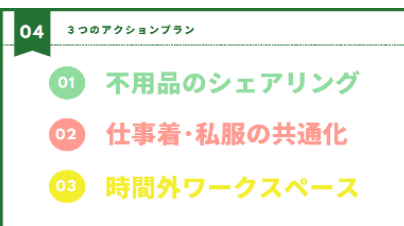
空白

庁内連携による環境基本計画の推進

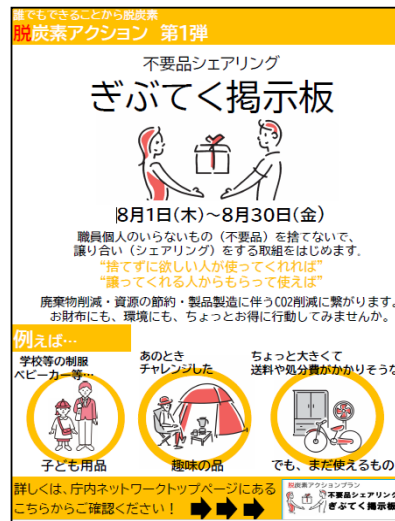
計画に記載している内容	小田原市環境基本計画推進本部(本部会議及び推進部会会議)を引き継ぎ、新たにゼロカーボン・環境共生推進本部を設置・運営し、関係各課などの意見を聴取して、庁内の合意形成を図りながら、庁内連携によって環境基本計画を推進します。
定性的・定量的評価	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本計画の着実な推進のため設置・運営してきた、ゼロカーボン・環境共生推進本部にて、意見聴取・合意形成を図った庁内横断的な取組について、各担当部局と個別調整を実施しながら、取組を推進した。 ・また、推進本部に部会として設置した、「脱炭素アクションワーキングチーム」から提案を受けた、市職員が身近に取り組むことができる具体的な行動「脱炭素アクション」を具体化するために、関係部局と調整を実施し、不要品シェアリング「ぎぶてく掲示板」を実施した。(詳細p.24)
進捗状況	事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内横断的な事業の推進を図るため、より効果的に意見聴取や合意形成を得る方法を検討する必要がある。

状況を示す写真や資料等

【脱炭素アクション】



令和5年度に、推進本部に設置した部会「脱炭素アクションチーム」から、脱炭素アクションが推進本部会にて提案された。
「ぎぶてく掲示板」の詳細は、年次報告書p25参照



様式1-2 取組の柱

施策1 地域循環共生圏の構築

評価対象年度

令和6年度(2024年度)

1-1 環境資源の魅力発信

森里川海の恵みによる地域資源(地場産品、体験、人材、自然的景観等)を生かしたコンテンツ創りを進めるとともに、市内外へ効果的な発信をしていきます。

詳細指標

森里川海ブランドの認定数(件)《累計》

基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値			進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
—	10件	0件	0件 《0件》	10件 《10件》	100%

主な取組 ○重点的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・観光、農業、林業、漁業、広報等との連携 ・地域資源を生かしたコンテンツ創出 ○森里川海ブランドの確立
定性的・定量的評価	<ul style="list-style-type: none"> ・おだわら環境志民ネットワーク会員が提供する商品等の中から「Green Selection」として10種類の認定を行った。 ・「Green Selection」として認定された商品を同ネットワーク主催イベント「おだわらグリーンマルシェ」にて特設販売を実施し、PR及び販路拡大を図った。 ・市主催イベント(きまつり及び健やかなまちの食イベント)において、同ネットワーク会員の商品販売やワークショップを実施した。 ・「小田原ジビエフェア実行委員会」を設置し、鳥獣害被害や有害鳥獣の有効活用についての啓発をメインテーマとする「小田原ジビエフェア」を開催し、小田原ジビエの魅力アピールした。 <p>【定量的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おだわらグリーンマルシェ:2回実施 《R5実績 2回実施》 ・ローカルフードマルシェ(健やかなまちの食イベント):5団体参加 ・きまつり:10団体参加 《R5実績 6団体参加》 ・小田原ジビエフェア:1回実施

進捗状況

事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針

■計画どおり進捗している
□計画どおり進捗していない

認定した森里川海ブランドの周知及び販売促進について検討していく。

状況を示す写真や資料等

【森里川海ブランド】Green Selection 一覧(広報小田原1月号より)

小田原市の自然環境に貢献しているモノやサービスを効果的にPRすることで、地域資源から経済的価値を作り出す取組。地域の豊かな自然環境を守る取組の中で作り出した商品などから、第1弾として、全10種類を認定した。



【おだわらグリーンマルシェ】

<第4回>12/14開催 14団体参加



会場の様子

【小田原ジビエフェア】

有害鳥獣被害や、有害鳥獣の有効活用についての知識や理解を深めるため開催。ジビエカツサンド等の飲食販売、ワークショップ、物販、展示等。



R7年3月23日
マロニエふれあい広場

様式1-2 取組の柱

施策1 地域循環共生圏の構築		評価対象年度		令和6年度(2024年度)	
1-2 先導的事業の推進					
<p>荒廃竹林や獣害などの環境課題の解決に向け、民主導の公民連携のもと、市民のみならず首都圏等から多くの方に関わっていただき、課題だったものが経済性を有する地域資源に転換し、環境保全活動の促進へとつながる循環の仕組みの構築を目指します。また、環境の各分野や他分野など、分野横断的な取組をすることで、地域循環共生圏の構築に向けたモデル事業を実施していきます。</p>					
詳細指標					
地域循環共生圏の構築に向けた取組数(件)《累計》					
基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値			進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
—	5件	1件	2件 《3件》	5件 《8件》	100%
主な取組 ○重点的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域循環共生圏の構築に向けた検討や事業実施 ・環境課題への対応(荒廃竹林解消、獣害対策) ○環境保全活動に係るプラットフォーム機能の強化 				
定性的・定量的評価	<p>・「おだわら環境志民ネットワーク」における3事業を軸とした、会員連携に向けた機会の創出に係る取組に対する支援等を行った。(イベント等の出展・開催、フィールドワーク・勉強会等)</p> <p>・会員連携による新たな取組等として、小田原城のお堀清掃や早川地区の耕作放棄地の移植活動など先進的取組につながった。(環境活動支援事業)</p> <p>・「環境と資源の好循環」の実現に向けた取組として、「おだわら森里川海ブランド事業(GreenSelection)」を開始した。(詳細p.2)</p> <p>※詳細指標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンターバンク事業(R4年度～) ・荒廃竹林の整備、伐採竹の活用としてのメンマ作成販売(R5年度～) ・耕作放棄地等を活用した植物染め(R5年度～) ・小田原城 東堀の清掃(R6年度) ・ジビエフェア開催(R6年度) ・おだわら森里川海ブランド事業(GreenSelection)(R6年度) ・グリーンマルシェ(R6年度) ・夏休み環境教室(R6年度) <p>【定量的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員数:94(団体:38 企業:13 個人:43) ※令和6年度末現在 ※前年度比 11増 ・おだわら環境志民ネットワーク環境活動支援事業:9事業、交付金総額 696,000円 《R5実績 7事業、交付金総額632,395円》 				
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針			
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない					

状況を示す写真や資料等

【おだわら環境志民ネットワーク】
 <そだてる事業(次世代の人材育成)>



12月14日HaRuNe小田原
 自主イベント(グリーンマルシェ)の開催

<つながる事業
 (相談支援体制の構築)>



フィールドワークの開催

<うみだす事業(環境と経済の好循環) 環境活動支援事業>



小田原城のお堀清掃プロジェクト



早川ミカン畑の耕作放棄地の移植活動

様式1-2 取組の柱

施策2 多様な主体の育成・活躍の推進

評価対象年度

令和6年度(2024年度)

2-1 環境学習・環境活動の推進

市民の環境意識の向上を目指した環境学習などの取組をさまざまな機会を捉えて推進するとともに、小田原の豊かな自然環境の魅力を広く伝え、森里川海を守り育てていくための体制づくりを進めます。

詳細指標

環境学習実施件数(件)

基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値			進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
8件	20件	12件	23件	20件	100%

主な取組 ○重点的な取組	<p>○市民による環境学習</p> <p>・活動推進 ・環境団体等への活動支援 ・情報提供や共有</p> <p>・森林環境教育・木育</p>
	<p>『夏休み子ども環境教室』、『おだわらグリーンマルシェ×環境フェス@HaRuNe小田原』を開催した。</p> <p>・担い手育成を目的とした「おだわら市民学校」専門課程と連携し、おだわら環境志民ネットワーク会員が講師を務め、新たな担い手の確保につなげた。</p> <p>・イベント運営にあたっては、市内外での環境活動を推進している団体・個人を中心に講師を依頼、また県施設との連携も図った。</p> <p>・広報紙「広報おだわら」において、脱炭素施策について、特集記事を掲載し、周知を図った。</p> <p>・わたしの木づかい事業において、市内小学校児童を対象に座学、間伐体験、地域産木材を使った箸づくりまでの森林整備から木材利用の流れを体験することによって、「人々の暮らしに役立つ森林の働き」、「森林の手入れの必要性」、「木を使うことの意義」等、森林・木材に関する理解を深めた。</p> <p>・森のおくりもの事業において、誕生祝品として新生児に地域産木材で製作した玩具を贈呈し、感性豊かな乳幼児期から木に親しむ環境を醸成した。</p> <p>※詳細指標 夏休み子ども環境教室(14回)、おだわらグリーンマルシェ×環境フェス@HaRuNe小田原(ワークショップ6件)の合計講座数 参考:「おだわらグリーンマルシェ」 環境志民ネットワーク会員の事業PRの発信の場として、開催される定例事業。 本年度に立ち上がった、独自認定ブランド商品のPRを目的として開催、環境フェスはワークショップブースとして共催参加。人気講座の集約を行いブースを出展した。</p> <p>【定量評価】</p> <p>・夏休み子ども環境教室:14回、263人参加《R5実績:11回、154人参加》</p> <p>・おだわらグリーンマルシェ×環境フェス@HaRuNe小田原: 6ブース、ワークショップ利用約200人《R5年実績 9ブース、利用約180人》</p> <p>・おだわら市民学校「自然を守り育てる」:15講座、15人参加《R5実績 14講座、9人》</p> <p>・わたしの木づかい事業実施校・参加児童数:20校・1,096人《R5実績 15校、888人》</p> <p>・森のおくりもの事業地域産木材玩具配布数:894個(人)《R5実績 1,050個(人)》</p>

進捗状況	事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針
<p>■計画どおり進捗している</p> <p>□計画どおり進捗していない</p>	

【夏休み子ども環境教室】7/25～8/25期間開催

夏休み期間を利用して、市内小中学校生を対象に開催。

一部講座はプラごみ共同宣言による広域講座として実施。



7/26竹ぽっくり作りと竹切り体験



8/21県西地域2市8町共催【南足柄会場】
海岸の砂から海洋プラスチックごみを探そう！

【おだわら市民学校】



9/26 環境事業センター施設見学

【おだわらグリーンマルシェ×環境フェス
@HaRuNe小田原】12/14開催

おだわら環境志民ネットワークの自主イベントと共同開催。環境学習ブースの参加団体は志民ネットワーク会員を始め、協定企業、県施設などと連携を行い実施。



球体発泡スチロールで作るミニ地球儀
(協力：県立生命の星地球博物館)



イベントチラシ
おだわらグリーンマルシェ
×環境フェス@HaRuNe小
田原

【わたしの木づかい事業】
伐採見学



【森のおくりもの事業】
贈呈品



3-1 地球温暖化対策の推進

脱炭素社会の実現に向けて、地球温暖化の緩和に資する設備導入支援や再生可能エネルギー電力利用の普及、省エネの促進、ごみの排出量削減などを推進するとともに、暮らしの中に脱炭素行動を取り入れられるよう促していくことで、環境に配慮したライフスタイルへの転換を図ります。また、市役所自らが率先して、脱炭素化の取組を進めます。あわせて、洪水や土砂災害、熱中症への対応や農林水産業への影響など、地球温暖化への適応に関する情報把握や普及啓発を図ります。

詳細指標

電気自動車普及台数(台)

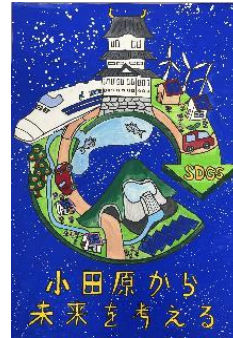
基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値			進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
291台	1,000台	434台	611台	未確定 ※令和8年1月末頃 確定	— 確定後に算出

主な取組 ○重点的 な取組	<ul style="list-style-type: none">・小田原市地球温暖化対策推進計画や小田原市エネルギー計画の策定及び推進・地球温暖化対策に資する設備導入に対する支援○市民や事業者等における地球温暖化対策の促進・環境配慮契約の推進・普及
定性的・ 定量的 評価	<ul style="list-style-type: none">・令和4年度に策定した気候変動対策推進計画について、中間評価を行った。・環境審議会では有識者等と協議を行い、申請や認定に係る詳細な手続き等を整理の上「地域脱炭素化促進事業ガイドライン」を策定・公表した。・民生家庭部門における温室効果ガスを削減するため、「地球温暖化対策推進事業費補助金」の交付を行った。・市、市民、事業者の協働による任意団体「おだわらゼロカーボン推進会議」の運営を行い、小中学生を対象とした絵画・ポスターコンクールやSNSで脱炭素に関する普及啓発を行う「おだゼロアンバサダー」の一般公募、再生可能エネルギーを使用する事業所を登録する「おだゼロRE100事業」のほか、環境イベントを実施した。・広報小田原12月号において地球温暖化の現状を啓発したのほか、市内で脱炭素社会実現に向け取り組む市民、事業者を紹介する特集記事を作成した。・『夏休み子ども環境教室』にて、環境学習講座を開催した。 <p>【定量的評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・地球温暖化対策推進事業費補助金 蓄電池:18件、EV:12件、燃料電池:3件、ZEH:8件 V2H:2件 《R5実績 蓄電池:23件、EV:8件、燃料電池:5件、ZEH:10件》・おだわらゼロカーボン推進会議:74会員(事業者:49会員、個人:20会員、学生:1会員、賛助:4会員)《R5実績 63会員》・おだゼロ絵画・ポスターコンクール:応募総数255作品《R5実績 296作品》・おだゼロアンバサダー事業:任命数7名、総投稿数78投稿《新規事業》・おだゼロRE100事業:登録事業所数:27事業所《新規事業》
進捗状況	
事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針	
<div>■計画どおり進捗している</div> <div>□計画どおり進捗していない</div>	温暖化や脱炭素という言葉に対する市民の認知度は高く、これまでの普及啓発施策により一定の効果が生じていることが考えられる。今後は市民が主体的に温暖化対策に参加し、行動できるよう施策のあり方を含め検討していく。

【おだゼロ絵画・ポスターコンクール】



表彰式の様子



おだゼロ大賞 受賞作品

【おだゼロアンバサダー事業】



【広報おだわら12月号特集】



【おだゼロRE100登録事業】



【夏休み子ども環境教室】



「ミニソーラーハウスで電気を”創って”蓄めて”光らせよう！」

様式1－2 取組の柱		評価対象年度			令和6年度(2024年度)
施策3 脱炭素					
3－2 エネルギーの地域自給の推進					
エネルギーの地域自給に向けて、国・県の施策とも連携しながら再生可能エネルギーの利用を促進するとともに、地域のエネルギーを地域で効果的に活用する取組を公民連携により推進します。また、公共施設の新設や大規模改修時には、再生可能エネルギーの活用や省エネルギー化などの環境に配慮した整備を進めます。					
詳細指標					
市内の再生可能エネルギー導入量(kW)《累計》					
基準値 (令和元年度) (2019年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値			進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
34,000kW	67,000kW	2,000kW 《39,000kW》	2,000kW 《41,000kW》	2,000kW 《43,000kW》	27%
主な取組 ○重点的な取組	○再生可能エネルギー設備導入に対する支援 ・地域マイクログリッドを通じた先進技術の実装 ・産業用蓄電池を活用したエネルギーマネジメント事業の実施 ・公共施設への環境に配慮した整備の検討 ・「ゼロカーボン・デジタルタウン」の創造				
定性的・定量的評価	・国の交付金を活用して、再生可能エネルギー導入・省エネ改修に対する補助金の交付及び、公共施設への再生可能エネルギー導入・省エネ改修を引き続き行った。 ・令和5年度から実施している「脱炭素先行地域づくり事業」においては、国(環境省)による中間評価の結果、「モデル性を支える事業が概ね順調に進捗している選定自治体」として「継続」が適当と評価された。 ・「脱炭素先行地域づくり事業」の一環である電力地産地消プラットフォームの構築及び運営においては、一般送配電事業者、特定卸供給事業者及び地域新電力と、「小田原市における電力地産地消プラットフォームの構築及び運営に関する連携協定」を締結した。また、整備を進めている市立病院新病院の設計段階においては、50%以上の省エネを達成する「ZEBReady(ゼブレディ)」の認証を取得した。 【定量的評価】 ・重点対策加速化事業費補助金:太陽光45件、蓄電池24件、《R5実績 太陽光25件、蓄電池1件、ソーラーシェアリング1件》 ・脱炭素先行地域づくり事業費補助金:太陽光8件、《R5実績 太陽光2件》 ・公共施設の再エネ導入・省エネ化:太陽光1施設、照明9施設、空調2施設、EV公用車5台 《R5実績 太陽光1施設、照明46施設、空調1施設、EV公用車5台》				

進捗状況	事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針
<input type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	<p>エネルギーの地域自給の基盤となる設備や仕組みの構築を着実に推進できているが、エネルギーの地域自給に必要な市民・事業者には、その存在や意義がなかなか認知されていない。今後は基盤整備の推進を継続する一方で、これまでの周知のみならず、理解を醸成するための場を設ける等、実際の運用に繋がるよう取り組んでいく必要がある。</p>
状況を示す写真や資料等	
<div data-bbox="587 421 912 456" style="text-align: center;">【太陽光発電設備の設置】</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>公共施設(学校給食センター)への設置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>民間事業所への設置</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <div data-bbox="311 860 587 896" style="text-align: center;">【公共施設の省エネ改】</div>  <p>高効率空調の導入</p> </div> <div style="text-align: center;"> <div data-bbox="928 860 1262 896" style="text-align: center;">【公共施設のZEB Ready化】</div>  <p>整備を進めている市立病院の設計段階で取得した ZEB Ready 認証ラベル</p> </div> </div>	

4-1 ごみの減量化・資源化の推進

省資源・循環型社会の構築を目指し、発生抑制・再使用に重点を置いたごみの減量化を推進するとともに、さらなるごみの分別徹底や分別品目の拡大などを進め資源化を推進します。

詳細指標

家庭における1人1日当たり燃せるごみ排出量(g)

基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値			進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
515g	484g	493g	474g	466g	100%

主な取組 ○重点的 な取組	○食品ロスの削減 ・生ごみの資源化 ・剪定枝の資源化 ○プラスチックごみの削減や資源化 ・紙布類の分別徹底 ・焼却灰等の適正処理や資源化

定性的・ 定量的 評価	<p>【定性的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の啓発事業等を充実させるため、食品ロス実態調査を実施し、家庭から出された燃せるごみに含まれる食品ロスの量を調査したほか、食品ロス削減に関連した夏休み子ども環境教室の開催、HP等による食べきり協力店の登録や利用・周知を行った。 ・段ボールコンポストを活用した家庭での生ごみ堆肥化事業を進めるため、スーパーマーケットなどにおける説明会や基材等の配布・販売を行うとともに、出前講座や動画等で積極的にPRを行った。 ・プラスチックごみの削減を進めるため、県西地域2市8町プラごみゼロ宣言による広域的に連携した啓発のため、共同使用する啓発パネルや啓発用動画の制作を行った。 ・メカニカルリサイクルとケミカルリサイクルを組み合わせることで、更なるペットボトルのリサイクル率向上に向け、新たにアサヒ飲料(株)・遠東石塚グリーンペット(株)・ペトリファインテクノロジー(株)とペットボトルの水平リサイクルに関する協定を締結した。 ・花王(株)小田原事業場及び花王コスメプロダクツ小田原(株)との包括連携協定の一環として、使用済みのつめかえパックを回収の取り組みを開始した。 <p>【定量的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールコンポストを利用した生ごみ堆肥化事業の実演:11か所、全27回《R5実績 7か所、全25回》 ・生ごみ堆肥化事業参加者による情報交換や勉強会:8か所、全13回、162人参加《R5実績 8か所、全13回、137人参加》 ・出前講座及びごみに関する授業:9回／6回、720人参加《R5実績 10回／7回、476人参加》 ・環境学習教室(『夏休み子ども環境教室』参考p5):4回、計70人(保護者含む)《R5実績 4回、計46人(保護者含む)》

進捗状況	事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

【夏休み子ども環境教室 エコピザ作り】

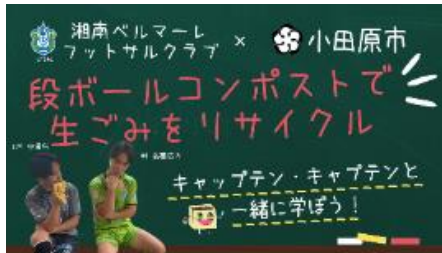


R6.7.31開催
冷蔵庫の使いきれない食材をいろいろ乗せたピザを作り、食品ロスについて学ぶ

【食品ロス実態調査】



【段ボールコンポスト動】



小田原市と株式会社湘南ベルマーレフットサルクラブの包括連携協定の中で、環境にやさしく持続可能なまちづくりを推進することを目的とし環境啓発動画を作成した。
第3弾として、段ボールコンポストについての啓発動画を作成した。

【県西地域2市8町プラごみゼロ共同宣言 啓発パネルー例】



【ペットボトルの水平リサイクルに関する協定】



2025年1月27日協定式

【使用済みのつめかえパック回収BOX】



家庭からでる使用済みつめかえパックの回収を実施。
回収箱設置場所
・市役所本庁舎2階、4階環境政策課前、環境事業センター

4-2 ごみの適正処理

さらなる循環型社会の形成に向け、高齢化の進展等、社会環境の変化を捉え、市民ニーズに的確に対応した収集運搬業務執行体制の改善を図ります。また、廃棄物処理施設の計画的な修繕と適正な管理運営を行うとともに新たな廃棄物処理施設のあり方について検討します。

詳細指標

資源化率(%)

基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値			進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
24.3%	24.9%	24.2%	23.5%	23.2%	0%

主な取組 ○重点的 な取組	○ごみ収集運搬業務執行体制の改善 ・大型ごみの収集受付のデジタル化検討 ・焼却施設の管理運営や修繕、今後のあり方検討 ・リサイクル施設などの管理運営、修繕 ・埋立処分場の管理運営 ・小田原市・足柄下地区ごみ処理広域化協議会の運営費補助を通じた新たな廃棄物処理施設の検討
	・ごみ収集運搬体制の効率化を図るため、ごみ集積場所の収集ルートについて、収集車の往復回数や積載量上限などのパラメータの諸条件を代えて設定し、AI解析による複数のシミュレーションを行った。 ・令和6年4月から、月1回の収集だった、かん類・びん類を月2回の収集とし、資源化を促進するとともに市民サービスの向上を図った。 ・資源ごみ回収拠点については、引き続き、環境事業センター、梅の里センター、尊徳記念館に設置し、資源化を図った。 ・焼却施設及びリサイクル施設などは、定期的な工事や必要な修繕を行い、適切な稼働状態を維持している。 ・小田原市・足柄下地区ごみ処理広域化協議会では、ごみ処理広域化について協議を重ねた。 ※詳細指標 資源化率は微減しているが、市民生活の変化に伴い資源ごみの大半を占める紙・布類が減少していることに起因している。 【定量的評価】 ・令和6年度の資源ごみ回収量：ペットボトル560.4kg、かん類433.7kg、びん類1,327.3kg、紙・布類14,315.4kg(R5実績 ペットボトル90.8kg、かん類133.9kg、びん類509.7kg、紙・布類5,713.8kg))

進捗状況	事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針
□計画どおり進捗している ■計画どおり進捗していない	・資源化率の向上を図るため、市民や事業者により分別の徹底を周知する必要がある。 ・新たな廃棄物処理施設のあり方については、引き続き広域化協議会で協議していく。

状況を示す写真や資料等

【資源ごみ回収拠点】

施設の開設時間中、資源ごみ(かん類・びん類、ペットボトル、紙・布類(環境事業センターのみ))

- ①環境事業センター
②梅の里センター
③尊徳記念館



環境事業センターの回収拠点



【資源ごみの回収】

R5.12~	環境事業センター				梅の里センター			尊徳記念館			合計			
	PET	かん類	びん類	紙・布類	PET	かん類	びん類	PET	かん類	びん類	PET	かん類	びん類	紙・布類
合計	47.7	84.0	297.3	5,713.8	9.5	10.8	59.1	33.6	39.1	153.3	90.8	133.9	509.7	5,713.8
R6.4~	環境事業センター				梅の里センター			尊徳記念館			合計			
	PET	かん類	びん類	紙・布類	PET	かん類	びん類	PET	かん類	びん類	PET	かん類	びん類	紙・布類
合計	270.9	174.4	565.1	15,349.7	112.8	95.1	228.0	188.8	176.6	566.9	560.4	433.7	1,327.3	14,315.4

(単位: kg)

施策5 自然共生		評価対象年度		令和6年度(2024年度)	
5-1 生態系の維持保全					
生き物たちの豊かな個性とつながりである生物多様性の保全に留意しながら、希少な動植物を守り育てる活動を進めるほか、市民の安全安心な生活のために、民間団体や狩猟者などと連携しながら有害鳥獣の追い払いや捕獲を進めます。					
詳細指標					
農作物の鳥獣被害額(千円)					
基準値 (令和2年度) (2020年度)		目標値 (令和6年度) (2024年度)		実績値	
				令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
				令和6年度 (2024年度)	進捗割合
13,329千円		12,586千円		2,497千円	634千円
				2,371千円	100%
主な取組 ○重点的な取組		・自然環境モニタリング調査等の実施 ○ニホンザルやイノシシ、ニホンジカ等の有害鳥獣対策 ・メダカやコアジサシの保護や啓発活動			
定性的・定量的評価		・自然環境モニタリング調査では、以前調査を実施した71地点のうち、4地点(陸域2地点、水域1地点)について、経年変化を確認する秋季と冬季(早春季含む)の調査を実施した。 ・神奈川県猟友会小田原支部等によるニホンザル捕獲の他、狩猟免許保有者による有害鳥獣駆除を実施。市民の被害を軽減、防止した。 ・ハクビシン等の有害鳥獣による生活被害軽減のため、捕獲の許可、捕獲檻の貸し出し等を行った。 ・「メダカのお父さん・お母さん制度」、市民メダカ会議を実施し、「酒匂川水系のメダカ」の保全啓発を図った。 【定量的評価】 ・捕獲数:イノシシ496頭、ニホンジカ454頭 《R5実績 ニホンザル4頭、イノシシ304頭、ニホンジカ462頭》 ・ハクビシン等小動物用の捕獲檻貸し出し数145個 《R5実績 262個》 ・コアジサシ飛来数50羽 《R5実績 100羽》			
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針			
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない					
状況を示す写真や資料等					
【有害鳥獣の捕獲】		【メダカのお父さんお母さん制度】			
					
(ハクビシン)		小学校や企業等へ酒匂川水系メダカを提供。			

5-2 森里川海の保全・活用(森)

森里川海がひとつになりにった豊かな自然環境を生かした地域循環共生圏の構築を目指します。暮らしを支える豊かな自然環境や、そのつながりの中で多様な生物が営む地域全体の生態系を守り、再生していきます。

森林の有する水源かん養などの公益的機能を発揮するため、間伐や枝打ちなどの森林整備を計画的に実施し、より公益性の高い多種多様な森林の育成を図るとともに、さまざまな生物が生息することのできる広葉樹を主体とした森林の再生を促します。

詳細指標					
〔森〕 小田原市森林整備面積(ha)					
基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値			進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
28ha	28ha	30ha	32ha	39ha	100%
主な取組 ○重点的な取組	○おだわら森林ビジョンに基づく施策の推進・森林整備 ・小田原産木材の活用(学校木の空間づくり事業) ・地域水源林の整備				
定性的・定量的評価	・学校木の空間づくり事業においては、木質化改修7校目にあたる町田小学校内装木質化を実施した。 ・児童への「木を使うことの意義」、「森林の手入れの必要性」等の森林環境学習(参考p.5)をはじめ、児童、保護者等と協働し、木製品を製作するワークショップを開催した。 ・県の水源環境保全税を原資に、意向・測量調査、間伐、枝打などの森林整備を行い、森林の持つ公益的機能を向上させた。 ・多くの市民等が利用する市内の民間建築物において、小田原産木材を積極的かつ効果的に活用する取組に対して補助金を交付した。				
	【定量的評価】 ・町田小学校内装木質化木材使用量:約27.5m ³ ・民間建築物小田原産木材利用促進事業費補助金:5件(R5実績 4件))				
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針			
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない		・水源環境保全税の対象外となる市東部地域の森林整備に課題があり、継続的かつ計画的に森林整備を進めていく必要がある。			
状況を示す写真や資料等					

【学校木の空間づくり事業】



町田小学校

【民間建築物小田原産木材利用促進事業費補助金】



ゲストハウス

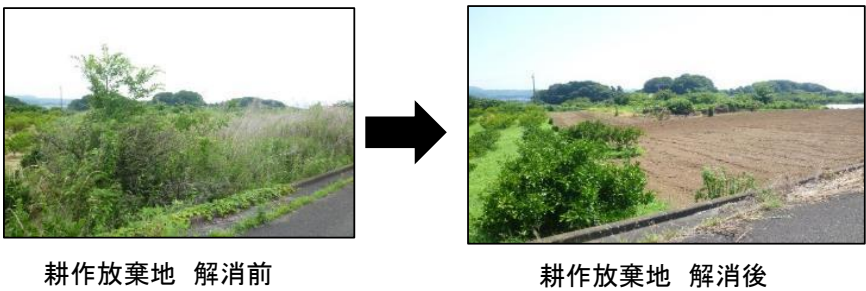
5-2 森里川海の保全・活用(里)

森里川海がひとつになりにった豊かな自然環境を生かした地域循環共生圏の構築を目指します。
暮らしを支える豊かな自然環境や、そのつながりの中で多様な生物が営む地域全体の生態系を守り、再生していきます。

市民が身近に親しめる自然空間や、さまざまな活動や学習のフィールドとしての里山の再生に向けた地域の取組を支援するほか、耕作放棄地解消の取組を進めることなどにより農地の適切な維持・保全に努めます。

詳細指標					
〔里〕 耕作放棄地面積及び累計解消面積(ha)					
基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値			進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
178ha・5.7ha	176ha・7.7ha	ー・6.9ha	ー・7.1ha	ー・7.9ha	100%
主な取組 ○重点的な取組	・里山づくり推進事業費の補助 ○農業振興地域の管理 ・農道・用排水路整備・維持管理 ・農業の有する多面的機能発揮促進事業への支援 ・耕作放棄地の予防対策 ・農業の生産振興(環境保全型農業の推進)				
	・多面的機能支払交付金を活用し、地域団体の農地維持と資源向上への共同活動へ支援を行った。 ・環境保全型農業直接支払交付金を活用し、農業団体の環境保全型農業への取組に支援を行った。 ※詳細指標について ・耕作放棄地面積は、令和2年度の基準値を算出した調査が令和3年度から行われていないため比較が難しいが、解消面積は増加している。 【定量的評価】 ・多面的機能支払交付金対象団体 10団体(R5実績 10団体) ・環境保全型農業直接支払交付金対象団体 3団体(R5実績 3団体)				
進捗状況		事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針			
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない		農業の担い手不足は深刻で、新たな耕作放棄地の増加もあり、全体の耕作放棄地面積を減少させることはますます難しくなっているため、今後も活動団体への継続支援を実施していく。			
状況を示す写真や資料等					

【耕作放棄地の解消に関する取組】



5-2 森里川海の保全・活用(川)

森里川海がひとつになりにった豊かな自然環境を生かした地域循環共生圏の構築を目指します。
暮らしを支える豊かな自然環境や、そのつながりの中で多様な生物が営む地域全体の生態系を守り、再生していきます。
酒匂川水系の豊かな環境を将来の世代に引き継ぐため、市民との協働により、河川環境の保全活動や環境教育を進め、水質の保全や環境維持向上に努めます。また、治水や水質の安全性を保ちつつ、市民の憩いの場として水辺を親しめる多自然水路を整備・保全します。

詳細指標

〔川〕 酒匂川水系保全協議会実施イベント参加者数(人)

基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値			進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
88人	330人	91人	203人	242人	64%

主な取組 ○重点的 な取組	○酒匂川水系のフィールド体験 ・酒匂川水系の生物相調査 ・河川の水質・動植物調査 ・多自然水路の整備・保全
	・酒匂川フォトコンテストやワクワク自然体験教室、環境保全講演会等を通じて、酒匂川水系の環境保全等に係る意識醸成を図ることができた。 【定量的評価】 ・酒匂川水系保全協議会会員数:78会員《R5実績 77会員》 ・親子でアユの放流体験:160人参加《R5実績 101人》 ・酒匂川フォトコンテスト:42人応募《R5実績 38人》 ・ワクワク自然体験教室:26人参加《R5実績 20人》(p.5参照) ・フィールドワーク事業:14人参加《R5実績 10人》 ・牛島排水路 整備延長L=60.3m《R5実績 44.1m》

進捗状況	事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	親子でアユの放流体験やワクワク自然体験教室等、定員を大幅に上回る人気なイベントについては、募集定員や実施回数を増やし、参加できる人数の増加を図っていく。

状況を示す写真や資料等

【酒匂川フォトコンテスト】



会長賞作品

【牛島排水路整備】



【フィールドワーク事業】 7/27開催



小田原アリーナ横排水路及び河川敷にて水のいきもの観察会

【ワクワク自然体験教室】8/3開催



丹沢湖(酒匂川水源地)にてSUP(サップ)体験

5-2 森里川海の保全・活用(海)

森里川海がひとつならになった豊かな自然環境を生かした地域循環共生圏の構築を目指します。暮らしを支える豊かな自然環境や、そのつながりの中で多様な生物が営む地域全体の生態系を守り、再生していきます。

限りある水産資源の保護と育成を進めるとともに、安全性・持続性・多様性の観点から小田原漁港・漁場の整備を進めます。

詳細指標

〔海〕 小田原漁港の水揚げ量(t)

基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値			進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
2,816t	2,895t	2,486t	3,159t	3,377t	100%

主な取組 ○重点的 な取組	・小田原漁港の整備促進 ○稚魚・稚貝の放流支援・藻場礁設置支援
	<p>・水産資源の増大及び漁業者の経営の安定化を目的として、サザエ・アワビの稚貝放流を行った。</p> <p>・サザエ、アワビの餌となる海藻が磯焼けにより減少していることから、藻場の保全・再生への取組を行う団体に支援を行い、水産資源の着実な保護と育成に寄与した。</p> <p>・稚貝放流については、サザエ約14,000個、アワビ約40,300個を放流し、藻場の保全・再生については、一部の定点観察ポイントにおいて、完全に消失していた自然海域でのカジメ(海藻)が被度10%まで回復するなど、環境改善の兆しが見える成果を得る事ができた。</p> <p>※詳細指標について</p> <p>・令和6年度実績については、目標値を上回るものとなったが、短期的な漁獲量の増減はその年の海流や水温等が影響していると考えられ、本施策における取組の効果発現までには、長期の視点で継続的な実施が必要である。</p> <p>【定量的評価】</p> <p>・稚貝放流数: 約54,300個(サザエ約14,000個、アワビ約40,300個)《R5実績 約60,300個》</p>

進捗状況	事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	計画どおりの事業実施が必ずしも成果として数値化されない点は課題ではあるが、着実な事業実施が水産資源の保護と育成に確実につながるものであり、継続的に取組んでいく。

状況を示す写真や資料等

【稚貝の放流】

稚貝(サザエ)の
種苗放流の様子稚貝(サザエ)
の種苗

【藻場の保全・再生】



海底に設置した藻場礁(保護しながら育成中)



自然海域で回復し始めた海藻(カジメ)

6-1 快適な街の維持保全

まちなかにおける民有地や公共空間の緑化などを推進するとともに、街路樹の再整備や改善によるみどりの創出や質の向上を図ることで、持続可能な緑化を推進します。また、安心して利用できる魅力ある公園の整備や管理を、市民や企業などと協働で取り組むとともに、公園の多面的な機能をより高め、発揮するために、地域の実情に応じた取組を推進します。

優れた景観への誘導を促進し、歴史的建造物を核とした街なみを形成することを目的に、回遊性の向上、良好な居住環境創出のため、景観計画重点区域の拡充や、市民による自主的な景観形成の支援などに取り組めます。また、地域が主体となって地域の資産を活用したまちづくりを推進する体制の確立を支援します。

詳細指標

再整備した街区公園数(公園)《累計》

基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値			進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
-	2公園	0公園	1公園 《1公園》	1公園 《2公園》	100%

主な取組 ○重点的 な取組	<ul style="list-style-type: none">・民有地や公共空間の緑化支援・公園等の適切な維持管理・景観計画重点区域の拡充 <ul style="list-style-type: none">○街区公園・街路樹の再整備・保存樹・保存樹林奨励金の交付や標識設置・景観形成修景費の補助
定性的・ 定量的 評価	<ul style="list-style-type: none">・小田原駅周辺の道路照明灯等に花飾りを設置し、公共花壇へ花の植付けを行うとともに、緑化団体等へ花苗を配布し、公民館等の地域拠点を緑化した。(グリーンライフサークル等)・身近な公園プロデュースでは地域住民との協働による公園管理を行った。・街区公園再整備については、山根公園の再整備計画を基に、再整備を実施しリニューアルオープンした。また、宗沢公園の一部廃止に伴う代替公園整備として(仮)飯泉公園を計画し、ワークショップ開催等により地域ニーズを把握し、実情に応じた公園整備計画を策定した。・街路樹再整備については、樹木診断調査を基に市道0017(西梅子小路)・市道2328(城山三丁目)のサクラについての再整備を実施した。 <p>【定量的評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・グリーンライフサークル 花苗配布件数: 春43団体、秋42団体(年2回 計14,648株配布)《R5実績 春42団体、秋40団体、計14,128株》・身近な公園プロデュース登録公園数: 77公園《R5実績 76公園》・保存樹・保存樹林奨励金交付件数: 保存樹43件、保存樹林18件 《R5実績 保存樹44件、保存樹林18件》・景観形成修景費補助件数: 2件(目標値: 2件/年)

事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針

■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	<ul style="list-style-type: none">・グリーンライフサークル、身近な公園プロデュース活動等の担い手を継続的に確保していく必要がある。・街区公園再整備にあたっては公園ごとに劣化状況やニーズが異なるため、これを把握して進めていく必要がある。
-------------------------------	---

状況を示す写真や資料等

【グリーンライフサークル】【景観形成修景費補助事業】



F様店舗外観修景工事
・赤く明るい屋根を重圧感のある低彩度に変更し縦格子や犬矢来、植栽を設置

6-2 美化の推進と衛生環境の保持

市民の環境美化意識をさらに高め、ごみの投棄や落書きなどのないきれいなまちづくりを進めるとともに、害虫駆除やし尿処理などの公衆衛生環境の保持に努めます。また、犬・猫飼い方マナー啓発看板の貸与や犬のしつけ教室を実施し、糞尿被害の減少に取り組むとともに市民のニーズに適切に対応した斎場を運営します。

詳細指標

美化清掃実施回数(回)

基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値			進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
276回	500回	563回	586回	625回	100%

主な取組 ○重点的 な取組	<ul style="list-style-type: none">・ボランティア清掃をする方へのごみ袋の配布○環境美化推進員の育成・環境美化促進重点地区の喫煙所の管理・害虫駆除やし尿などの収集・犬・猫飼い方マナーの周知や野良猫の去勢・不妊手術費補助金の交付・斎場の管理運営・扇町クリーンセンターの管理運営・長寿命化
	<ul style="list-style-type: none">・美化清掃回数は昨年度より増加し環境美化意識は保たれている。・犬・猫の飼い方マナー啓発のため、上府中公園及び扇町クリーンセンターでドッグランを開催したほか、看板の貸出や、野良猫の去勢・不妊手術費補助金を交付し、野良猫等に係る苦情、相談の減少に努めた。 <p>【定量的評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・ボランティア清掃用ごみ袋配布枚数:可燃32,973枚、不燃6,523枚(R5実績 可燃40,035枚、不燃10,710枚)・環境美化推進員研修会実施:令和7年1月30日・スズメバチ営巣駆除件数:173件(R5実績 199件)・犬・猫飼い方マナー啓発看板の配布:184枚 (R5実績 190枚)・野良猫の去勢・不妊手術費補助金の交付:オス1件、メス6件 (R5実績 オス5件、メス11件)・上府中公園ドッグラン来場頭数等:延べ3,584頭(30日間開催)(R5実績 延べ2,420頭(34日間開催))・扇町クリーンセンタードッグラン来場頭数等:延べ775頭(8日間開催)(R5実績 延べ547頭(10日間開催))

進捗状況	事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	<ul style="list-style-type: none">・環境美化推進員の育成については研修会の開催時期や内容について再検討し、より環境美化意識の向上に努める。・害虫駆除実施場所については公衆衛生の観点から見直し検討中である。

状況を示す写真や資料等

【美化清掃回数】

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
自治会清掃	258回	258回	271回	169回	171回	216回	266回	291回
ボランティア清掃	475回	528回	474回	407回	400回	347回	320回	334回
計	733回	786回	745回	576回	571回	563回	586回	625回

【環境美化推進員研修会の様子】



令和7年1月30日開催
ごみ集積場所の管理などについての講義

6-3 公害対策

人間が豊かな自然環境を享受するため水質など環境保全に関する調査や監視を行います。

詳細指標

主要河川のBODの環境基準適合率(%)

基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値			進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
100%	100%	100%	100%	100%	100%

詳細指標

生活環境に対する苦情件数(件)

基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値			進捗割合
		令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
59件	減少	66件	59件	48件	100%

主な取組 ○重点的 な取組	○河川・地下水等の水質調査 ・自動車騒音調査等の環境調査 ・環境や水質保全のための事業者への立入調査 ・苦情発生抑制の注意喚起
	・河川の水質調査などを実施し、環境保全に関する調査や監視を行い、その調査結果の報告として、「小田原かんきょう白書」を作成公表した。 ・事業者へ立入調査のほか、比較的苦情の多い解体工事や野焼きについて、注意喚起の啓発を行うことで、苦情発生の抑制を図った。
定性的・ 定量的 評価	【定量的評価】 ・水質常時監視調査※BOD(生物化学的酸素要求量) 河川8地点において、全地点で水質汚濁の指標であるBODが環境基準を達成 地下水8地点において、全地点で環境基準に適合 ・自動車騒音常時監視調査 9地点において、環境基準達成率が100%であった。 ・事業者への立入調査: 延べ47回実施 ・工事に伴う騒音苦情: 9件(令和2年度: 15件) 野焼きに伴う大気苦情: 10件(令和2年度: 26件)

進捗状況

事業の実施・検討にあたっての課題と対応方針

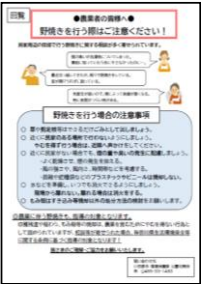
■計画どおり進捗している
□計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

【小田原かんきょう白書】



【野焼きへの注意喚起 ちらし】



【年度別公害苦情件数】


年度	大気	水質	騒音	振動	悪臭	土壌汚染	その他	合計
R2	26	1	21	5	6	0	0	59
R3	30	6	24	2	7	0	1	70
R4	29	3	25	1	8	0	0	66
R5	21	5	26	0	7	0	0	59
R6	13	2	22	2	7	0	2	48

		評価対象年度	令和6年度(2024年度)
各事業に関する報道			
報道された内容など		年月日	掲載紙等
辻村農園の自然共生サイト登録について		2024/4/3	神静民報ほか
電力地産地消プラットフォームの構築に関する連携協定締結について		2024/10/9	神静民報
ペットボトルの水平リサイクルに関する連携協定締結について		2025/1/28	神奈川新聞
サザエ・アワビの稚貝放流について		2025/2/26	tvkニュース(テレビ神奈川)
定性的・定量的評価	<p>取組の柱「3-2エネルギーの地域自給の推進」、「4-1 ごみの減量化・資源化の推進」、「5-1生態系の維持保全」、「5-2 森里川海の保全」に関連する事項について適宜報道された。</p> <p>新事業の開始や、市の取組内容、市内活動団体等の環境へ関する取組内容等について、行政側から積極的な情報提供を行うことで、市の取組状況や新事業について報道され、これによって関心を高めることができた。</p>		

SDGsの推進

計画に記載している内容	令和元(2019)年7月に国の「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定され、SDGsの推進に向けて、人の力を重視し、現場での実践と学びを循環させる取組やSDGsの理念に賛同した企業、大学、法人等の「おだわらSDGsパートナー」と協力した取組によって、様々な課題解決を進めています。	
定性的・定量的評価	<p>・「おだわらSDGsパートナー」については、新たに25者を登録した。</p> <p>・「おだわらSDGs実行委員会」では、定例会で情報共有や意見交換を行うとともに、「おだわらSDGsデイ2024」や「みんなでSDGsを学ぼう！～SDGsパートナーが先生に！～」など、パートナーと共にSDGsを体感できるイベントを開催した。</p> <p>・また、SDGsをテーマとしたブレストにより新しい考え方や解決策を見つけ、パートナー間の交流を図る「課題解決ワークショップ」や、パートナーがリアルに集い情報共有や意見交換することで、パートナー間の交流の促進、つながりの強化を目的とした「おだわらSDGsパートナー交流会」を引き続き開催した。</p> <p>・その他、年間の取組をまとめたSDGs普及啓発冊子「Think MIRAI 小田原から未来を考える」や動画の作成、若者の視点でSDGsを考え、伝えていくラジオ番組「SDGsユースレイディオ」の放送、市内の学校に出向き、SDGsを紹介する出前講座の実施など、SDGsの普及啓発を行った。</p> <p>【定量的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おだわらSDGsパートナー登録数:335者(R5実績 312者) ・おだわらSDGsデイ2024来場者:約700人(R5実績 約700人) ・みんなでSDGsを学ぼう！～SDGsパートナーが先生に！～参加者:延べ318人(保護者含む)(R5実績 延べ261人(保護者含む)) 	
進捗状況	実施・検討にあたっての課題と対応方針	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画の進捗に影響なし <input type="checkbox"/> 計画の進捗に影響あり	今後も継続して施策を推進していくとともに、パートナー同士の横のつながりや連携の強化に努める。	
状況を示す写真や資料等		
<p>【おだわらSDGsパートナー登録式】</p>  <p>令和6年8月9日開催</p>	<p>【おだわらSDGsデイ2024】</p>  <p>令和6年9月28日開催</p>	<p>【おだわらSDGsパートナー交流会】</p>  <p>(令和6年11月8日開催)</p>
<p>【みんなでSDGsを学ぼう！～SDGsパートナーが先生に！～】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="300 1624 644 1877">  <p>(令和6年7月22日～8月26日開催、全8日・16講座)</p> </div> <div data-bbox="1027 1606 1225 1872">  <p>SDGs普及啓発冊子 「Think MIRAI 小田原から未来を考える」 (令和6年度版)</p> </div> </div>		

職員への意識啓発

計画に記載している内容	新たな課題の解決に能動的に対応するため、行政の各部署が一丸となって第3次環境基本計画の推進に取り組む必要があります。
定性的・定量的評価	<p>・令和5年度に脱炭素社会の実現に向け、ゼロカーボン・環境共生推進本部に設置した”脱炭素アクションワーキングチーム”から提案された、市職員が身近に取り組むことができる具体的な行動『アクションプラン』のうち、不要品シェアリングを実施し、脱炭素のための職員の行動促進と意識向上を図った。</p> <p>・新採用職員向け研修として、ごみ収集を体験学習として実施した。</p> <p>【定量的評価】</p> <p>・不要品シェアリング 2回(R6年8月、10月)</p> <p>・新採用職員向け研修:33名参加</p>
進捗状況	実施・検討にあたっての課題と対応方針
<input checked="" type="checkbox"/> 計画の進捗に影響なし <input type="checkbox"/> 計画の進捗に影響あり	・より脱炭素のための職員の行動促進に繋がる脱炭素アクションとなるよう、運用方法の見直しの検討を行う。
状況を示す写真や資料等	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 50%;"> <p>【『脱炭素アクション』不要品シェアリング ギブてく掲示板】</p> <p>①実施内容 職員個人の不要品を職員間で無償で譲り合い、有効活用することで、廃棄物の削減や新規製品の資源節約、製品製造時の二酸化炭素排出量の削減を図る。</p> <p>②実施期間 第1期:令和6年8月1日～8月31日 第2期:令和6年10月1日～10月31日</p> <p>③実施結果 第1期:14件出品 9件譲渡済 第2期:13件出品 4件譲渡済</p> <p>◀ 庁内周知用ポスター</p> </div> </div>	

環境審議会における意見

会議日程
等

令和7年8月6日(水)開催 令和7年度第1回小田原市環境審議会にて

主な意見

様式2-1 成果指標

		評価対象年度		令和6年度(2024年度)		
<共通> 施策1		地域循環共生圏の構築				
目標	地域循環共生圏の構築を目指し、課題の価値化や人と資金の循環創出を進めます。					
成果指標	小田原の森里川海に触れる体験をした都市住民の割合(%)					
基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績 令和4年度 (2022年度)	実績 令和5年度 (2023年度)	実績 令和6年度 (2024年度)	達成割合	
8.9%	17%	— ※未算定	— ※未算定	— ※未算定	— ※未算定	
小田原の環境資源について、東京・横浜・川崎の18～69歳の男女を対象にアンケート調査を行い、そのうち自然体験をした方の割合を算出						
<共通> 施策2		多様な主体の育成・活躍の推進				
目標	豊かな環境を継承するため、多様な主体(市民、企業、市民団体のほか、市外の住民、企業、市民団体など)による参加と協働、人づくりを進めます。					
成果指標	環境に関するイベントに参加している人の割合(%)					
基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績 令和4年度 (2022年度)	実績 令和5年度 (2023年度)	実績 令和6年度 (2024年度)	達成割合	
12.6%	16.8%	— ※未算定	13.6%	13.3%	16%	
市民意識調査(まちづくりに関する市民アンケート)より						
<分野別> 施策3		脱炭素				
目標	脱炭素社会の実現に向けて、地域社会と暮らしの転換を図ります。					
成果指標	二酸化炭素排出量の削減率(%)					
基準値 (平成30年度) (2018年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績 令和2年度 (2020年度)	実績 令和3年度 (2021年度)	実績 令和4年度 (2022年度)	達成割合	
17.5%	28.3%	21.9%	24.2%	26.8%	86.1%	
環境省公表データによる(平成25(2013)年度比) ※数値は2年遅れて算出						

＜分野別＞ 施策4		資源循環			
目標	5Rを推進するとともに、限りある資源を長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小限にする経済活動など、循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行を進め、省資源・循環型社会の構築を目指します。				
成果指標	ごみの総排出量(t)				
基準値 (平成30年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績 令和4年度 (2022年度)	実績 令和5年度 (2023年度)	実績 令和6年度 (2024年度)	達成割合
66,861t	65,197t	64,273t	62,516t	60,931t	100%
市事業実績により、家庭ごみ・事業ごみ全体の排出量（資源物含む）を把握 (なお、第4次小田原市一般廃棄物処理基本計画の指標と整合を図り、令和11(2029)年度の目標数値を採用している。)					
＜分野別＞ 施策5		自然共生			
目標	自然と共生する暮らしを次世代に引き継ぐため、森里川海がひとつならになった自然環境を保全・活用します。				
成果指標	自然環境調査において確認できた生物の種数割合(%)				
基準値 (平成30年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績 令和4年度 (2022年度)	実績 令和5年度 (2023年度)	実績 令和6年度 (2024年度)	達成割合
100%	100%	— ※未算定	100%	— ※未算定	— ※未算定
平成29(2017)年から令和元(2019)年まで実施した自然環境調査における「小田原の森里川海街で広く確認され各環境を指標する種(80種)」のうち、モニタリング調査における当該調査地点において確認された種数割合を算出する。					
＜分野別＞ 施策6		生活環境保全			
目標	一人ひとりが安心して快適に暮らせるまちを目指し、良好な生活環境を守ります。				
成果指標	小田原が住みやすいと思う人の割合(%)				
基準値 (令和2年度) (2020年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績 令和4年度 (2022年度)	実績 令和5年度 (2023年度)	実績 令和6年度 (2024年度)	達成割合
95.8%	95.8%	95.8%	94.4%	94.6%	99%
市民意識調査(まちづくりに関する市民アンケート)より					